

第39回 アシナガバチ

カゴちゅん ショウくん かほくがたみん



ハチというとなぜ刺すということが思い浮かびます。人も動物もハチは刺すと思っていてハチを嫌います。そこで、ハチの姿を真似することで、食われないようにしている虫もいます。野外の花に集まるハエの仲間には、ハチのように黒と黄色の縞模様の胴体のものがあり、ハチに擬態して捕食者から逃れるように進化したものといわれています。ハチによく似ていますが、ハチのような産卵管が変化した針を持たないため、刺されることはありません。

今、花にやって来るハチによく似たハエの仲間には刺さないと書きましたが、実はハエの仲間には人を刺すものもいます。それは皆さんよくご存じのアブです。しかしハチが腹部後端にある産卵管で刺すのに対して、アブは口（吻）で刺します。これは血を吸う行為であり、実際には刺すのではなく皮膚を切って血を舐めているのです。刺すよりも噛むといった方が正しいでしょう。ハチは防衛と攻撃のために刺すので、ハチとアブでは、刺す器官と目的が違うといえます。

刺すという点からハチとアブの違いを述べましたが、実際には、ハチの仲間には刺すハチと刺さないハチがいます。刺すハチは、ハチの仲間の中でも進化したグループで、腰がくびれているという形態的な特徴をもっています。ハチの仲間には、腰のくびれていないグループもあり、それらは人を刺したりしません。幼虫がダイコンやカブの葉を食害するハバチの仲間は刺さないハチの代表です。

刺すハチは腰がくびれているという特徴の他に、多くの種が集団で巣を作って行動するという特徴をもっています。

スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチの仲間がその代表です。

河北潟には、この3つのグループのいずれもが生息していますが、最も目立つのはアシナガバチの仲間です。河北潟周辺に多く見られるアシナガバチには、ヤマトアシナガバチ、セグロアシナガバチ、キボシアシナガバチ、フタモンアシナガバチなどがいます。これらのアシナガバチは、主に藪の中に巣を作ります。

読者の皆様にはそのようなところを歩く方は少ないと思いますが、河北潟干拓地の畑の脇や水路沿い、湖岸などの藪を漕いで歩いて行くと、すごく大きな巣があったりします。セグロアシナガバチなど大きめのアシナガバチは刺されると結構痛いし、巣に当たったりすると集団で襲ってくるので気をつけましょう。ハチの立場からは、天敵がこない安全な場所としてノイバラの藪の中などに巣をつくっているのですが、そこをかき分けてやって来る動物がいると危機を感じて必死に攻撃するのでしょうか。無農薬栽培で畑をやっているとアシナガバチは害虫も食べてくれるので、重要な生きものと感じます。（文：高橋 久）